身近な雑かん木（8）　ムラサキシキブ

NPO法人自然観察大学　岩瀬　徹

秋の実はたしかにきれいな紫色だが，紫式部にかけたとしたらこの上ない美称である。

しかしシキブ（しきみ）とは実が重なり合って着く様で，紫式部とは関係ないともいわれる。庭木でムラサキシキブといっているのは後述のコムラサキが多く，果実はこちらの方が大きくてよく目立つ。

ムラサキシキブはクマツヅラ科（新しい分類法ではシソ科）の落葉低木で，各地の林縁や林内に普通に生育する。茎はむらがって立ち，多くの枝を出す。高さは３～４mほどになる。樹皮は灰褐色，はじめは星状毛が密生するがしだいに無毛になる。表面の皮目は楕円形。冬芽は鱗片に包まれない裸芽で，ごく小形の葉が芽を包んでいる。芽吹きのときはこの葉が展開する。

葉は対生する。質は薄く，縁に細かい鋸歯がある。葉の先は尾状にとがる。花期は６～７月，葉のつけねから枝を出し集散花序をつける。個々の花は小形で淡紫色。花冠の先は４裂する。果実は球形の核果で，果皮は熟すと濃紫色になる。中に堅い核に包まれた種子がある。

似た種類のヤブムラサキも林縁や林内に生育する。葉はやや大きく，葉面や葉柄，枝，果実のがくなどに毛が密生するので区別がつく。

コムラサキは湿地や湿った林内などに生育するが最近自生は少なく，多くは庭木として育てられる。高さは１～２m。葉の上半部の縁にやや粗い鋸歯がある。花序の枝は葉のつけねのやや上から出る。実は大きくて密につく。

写真－１　むらがって立つ樹形

写真－２　樹皮は灰褐色

写真－３　冬芽（裸芽）

写真－４　葉は対生

写真－５　花序（６月）

写真－６　果実（10月）

写真－７　コムラサキの花序